

国賠同盟近畿ブロック 交流会に参加して

不屈

国賠同盟奈良県本部会長 加藤宣之

基調報告

〈全体会①〉

9月23、24日の両日、「神戸しあわせの村」で20

24年度国賠同盟近畿ブロック交流会が開催され、近畿2府4県の本部から60名、うち奈良県本部からは会員、役員ら7名が参加しました。

交流会初日は地元兵庫県本部の主催者挨拶から始まり、次に神戸女学院大学名誉教授の石川康宏さんから「自民党政治を終わらせるために」と題する記念講演があり、自民党政権の大軍拡路線に反対し、自民党政治を転換する取り組みの工夫を持とうと熱っぽく訴えられました。

続いて治安維持法国賠同盟中央本部事務局長の永島民男さんからの近畿ブロック交流会に対する「治安維持法100年、2万の同盟で謝罪と賠償に決着を」

奈良県版

No. 381

2024年10月15

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
奈良県本部

〒630-8213 奈良県
奈良市登大路町5-5
奈良県教育会館内
☎ 0742-27-8640
振替 0990-2-209460

われわれの運動の基本

- 一、治安維持法体制の復活に反対する
- 二、国は、治安維持法が人道に反する悪法であつたことを認めること
- 三、国は、治安維持法犠牲者に賠償を行うこと

ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために

との基調報告がなされ、来年度の「治安維持法公布100年」の取り組みと会員拡大自主目標達成「2万人同盟建設」、国賠同盟「学習テキスト」活用の取り組みが提起されました。

この基調報告の提起に対し、各府県本部の代表から会員拡大、支部の確立、国賠署名の推進、犠牲者顕彰活動、女性部・青年部の確立などの報告がなされました。

会員拡大では、兵庫県本部は毎月の会員拡大にこだわり、1300人会員の自主目標達成をめざしていること、大阪府本部では「学習テキスト」を毎月役員会で輪読して学習に時間を割いていること、滋賀県では支部結成で今年東近江支部の準備会を結成したこと、和歌山県本部では10月下旬から11月上旬にかけて国賠署名の推進活動で協賛団体回りすること、京都府本部では定期的に清水寺門前で国賠署名の推進

活動に取り組んでいる」と、奈良県本部からは治安維持法犠牲者の顕彰活動として「長谷川テル訪問記念碑」の碑前祭の取組みや大和郡山支部の取り組みとして関東大震災の生き証人「立花春吉〔全虎石〕」の事績を偲ぶ会の開催や山宣の「武器なきたかい」上映会、また女性部の名称を変え今年5月に発足した「なり国連平和サミット」の取り組みなどについて報告しました。

一日目は二つの分散会に分けれ、午前中、前田の永島中央本部事務局長の基調報告をもとに熱心な討論が行われ、最後に全体会で二つの分散会議長からのまとめ報告がなされました。

二日間にわたる近畿ブロック交流会は、各府県の先進的な同盟活動の教訓に学び、交流しあう絶好の場でした。各府県が来年の「治安維持法100年」にむけ、本部の確立や会員拡大自立目標達成をめざし奮闘することを誓いあい、この交流会を終了しました。

〈全体会(2)〉

記念講演は「自民党政治を終わらせるために」「六

県本部副会長 小林照代

近畿ブロック交流会の1日目は、石川康弘 神戸女学院大学名誉教授による記念講演とブロック交流会が行われました。

記念講演のテーマは「自民党政治を終わらせるために」でした。はじめに今大変話題になつていい兵庫県政・知事選挙をめぐり、斎藤元彦現知事の次々と明るみに出た違法行為について触れながら、来たるべき知事選挙では、「県政に信頼と安心を」とわれらの知事候補者「おおさわ芳清」さんを知事にどう訴えがありました。

平和・安全をめぐっては、岸田政権下での戦争準備政策によって、日本も

ミサイル列島にするなど、戦争する国家「実践的」準備である、大軍拡予算を軍需産業にと經濟の軍事化も進められ、日米共同演習の巨大化、拡大など米軍への従属一体化も推進されてくる。

こうした日本政府への批判は強まつてゐる中、東アジアで平和をどう拓くか、ASEANに学び、対立の中でも対話の継続が求められています。

日本の世論は平和を諦めていません。“核兵器禁止条約に参加、9条は変えない”“平和を開く別の道を”と大きく運動を広げていこうと呼びかけられました。

ブロック交流会では冒頭に、永島民男中央本部事務局長から「来年は治安維持法100年、2万同盟実現で謝罪と賠償に決着つけよう」との報告があり、どの府県も会員獲得に新たな決意が示されました。

〈分散会①〉

神戸三宮があわせの村での 国賠近畿ブロック交流集会 に参加して

県本部常任理事 田中遼江

参加各ブロックの現状や報告であり、「いよいよ」も今中央から提案されている会員拡大や署名についてが中心でした。大阪：まず支部作りから。中心になり動いてくれる人を如何に見つけ出すか。が、今後の後継者作りにもなる。同盟員の多くは、他組織との絡みもあり運動中心にはなりにくい部分もある。また若干弁護士会の活躍も目を見張った。

女性部からも『治安維持法と現代』の読み合せを通して、時期時期に相応じた活動も報告。女性の活動が目立つた

感がある。女性チーへの参加、母親大会などの発言も女性部を作っているからJNの国賠同盟としても発言の場ができる。滋賀県：人権、現代からどう位置づけるか、決して過去の問題ではないと国賠署名を毎年行うことだと位置付け運動を継承。支部維持について幹部が率先して活動の根幹とする。兵庫、H支部：メンバーの動きが鈍く全体の動きができる。今年の総会出席は五名だった。A支部：顕彰ツアーをした。横浜事件で検閲した人が青森県知事に。八鹿事件と特高の関係で金井元彦は元特高の総元締めでもあった。戦後兵庫県知事となり、今の斎藤知事は孫にあたる。など話は「こと」とく戦前戦後を引きつる官僚体制が話題となつた。K支部：総会は会員外の参加もあり、三菱川崎の争議や6,000人規模のデモ行進は街中の人の応援ビラなどが盛り上がつたと報告。

治安維持法による弾圧は続き、学習会や総会の中で治安維持法について学ぶ機会を作つた。H地区的男性からの質問。治安維持法犠牲者国家賠償同盟は裁判をしているのか？賠償金を要求か？など。優生保護法に照らし合わせ、国賠の存在価値は？次につなげるための存在価値を会員全員として自覚しているか？質問を受け他の会員から、日本では大部分が焼却され証拠隠滅されてしまったが韓国では特高円報の書類が保存されており、歴然とした事実として確認できているとの説明があつた。近江：顕彰活動を考えて。伊藤千代子映画上映25回、人権弾圧に対する天保一揆の史跡巡り。一人一人が主役になれる活動をしていく。和歌山K支部：高齢化など体制の問題。若者につなげるには。一人200筆署名を集める女性の存在。それ以外は集会などで取り組みしつつ活動との調整が難しい。

次ページへ

H支部：奈良郡山とつながり、志賀直哉旧居での多喜一の隠れ部屋などをめぐる。

会員拡大は各県の指導部、支部の若返りに。

今年の参加に際し、私は特に世界のきな臭さが日本にも押し寄せていると
いう緊張感の中での発言が印象的でした。治安維持法下の暮らししが如何に人
権弾圧、人間性のかけらもない暗黒の
時代であり、一度と繰り返すまいと願
う意欲的発言が目立つた。決して過去
の問題ではなく、治安維持法の思想は
いまも引き継がれており、断固、断ち
切る活動にしなければならないと強く
思いました。

〈分散会②〉

県本部常任理事 奥西正史

思います。

近畿一県のみ参加の記憶がないが、
あとは殆ど全県を回らせてもらつた」

となる。組織拡大の課題は、どの地域にも普遍的なものだろうが、個別的な突破口がきっとあるはず。それを弛まず追求する生き方／行き方こそが必要なのはと思つた次第です！

〈分散会③〉

県本部常任理事 藤本みや子

治安維持法犠牲者同盟近畿ブロック交流会の24日の分散会では、25名～30名2つの分散会がもたれました。

私が参加した分散会では、各県連の活動内容、ビラ作り署名活動など話された。又青年部の活動と必要性が話された。

大阪のある支部の女性部の活動では、あちこち顕彰ツアーしているなど報告されました。これから青年部、ホームページつくりの必要性など話されました。今後の活動で、とにかく地道にするしかない、と思ひます。



発言する加藤会長



交流会への県本部参加者

和歌山県橋本市伊都支部との交流会

奈良の活動とゆかりの場所見学

般若寺（長谷川テル記念の碑）>旧少年刑務所（治安維持法犠牲者収監）

>志賀直哉旧邸（小林多喜二訪問の部屋）

11月28日(木)10~15時

■第1部:10~12:30 奈良教育会館(予定)

参加団体の紹介（10分）

①長谷川テル顕彰活動について(20分)

②奈良刑務所物語発刊の経緯(20分)

③立花春吉物語と顕彰活動(20分)

④質疑(20分)

⑤昼食(お食事処たちはばなの出前弁当) 1200円

■第2部 12:30~15:00 現地見学（車で移動）

①長谷川テル記念碑とコスモスの般若寺散策 13:00~13:40

②旧少年刑務所(耐震工事中のため外観のみ)見学 13:45~14:00

③小林多喜二ゆかりの志賀直哉旧邸見学 14:20~15:00

60年ぶり 親しく懇談

103才の治安維持法犠牲者 菱谷良一さんと

……来年の5月には国会請願にも参加したい……

悪名高い治安維持法の弾圧に屈せず戦い、103歳になる今日まで柔軟に、確固として生き抜く菱谷良一さんを三回目6年ぶりに訪ねて親しく懇談できた。

「来年の5月には国会請願がある。その時また参加したい。われわれが被った被害に対して、国家として謝罪と賠償を求める運動は大事だ。遠いところから、このように訪ねてくれる。嬉しい。外に出られないが、窓からの眺望を絵にすることができる。生きている証として画いている。」と菱谷さん。施設の食堂の窓からの石狩川の堤防を挟んだ風景を画いた102歳の時の作品を所望したところ快く、「持って帰って下さい。」と応じてくれた。

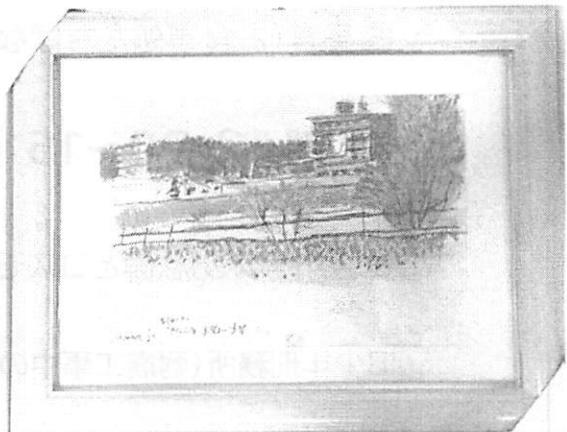
旭川の実家の近くで生活していた菱谷さんを、旭川在住の弟・八郎君に案内してもらい8年前には妻と訪ねた。6年前に2回目。3回目の今回は、2年前101歳で終の棲家と定めた施設に入所した部屋で約20分ほど懇談することができた。

2024年7月22日

県本部顧問 田辺 実



弟八郎君(右)と菱谷さん(中央)
と田辺(左)



『描くことは生きている証、
菱谷さん 102歳の作品』

季節の 言の葉

「乾かぬ絵具」より

六十年経つた今も
ちつとも乾いていない
あなたの絵具は
あなたが今も

そこに生きていることを
私たちに教えてくれる
鮮やかな
生命の色だ

蓬島誠一郎

「無言館」館主

白い風が吹く秋の日
木の葉のささやく森の中に
無言館は佇っていました。
生きたいと願った
戦没画学生が
残した原風景



無言館

川柳

台風のように値上げが押し寄せる
大谷のプレーに刹那夢もらう
祝園にこそつと大型弾薬庫

郡山支部 杉本英雄

若嫁はくしゃみ一回でぎっくり腰
兵庫知事言語明瞭人のせい
裏金は人には言えぬ秘め事か

奈良の愚僧

編集後記

2日間ぎっしりと詰まった近畿ブロック交流集会を終えて、帰路のバスに乗りました。車窓から見える景色にふいに神戸のキラキラと輝く海と、ビルの林立する街並みが入ってきました。

阪神神戸大震災の救護の第一陣として民医連から派遣された時の事が思い起こされました。同時に、今なお復旧されない地震の爪あとに追い打ちをかけ、豪雨に苦しむ石川県の事を思わずにはいられません。何をさしあいても優先させるべき事が後回しにされている、おきぎりにされているのは能登だけではありません。

日本中のおきぎりにされている人々を暖かく包み込む政治が求められています。改憲と、国を守るということを口をそろえて唱えた総裁選の末、鶴(ヌエ)のような新総理が生まれました。そしてきわめてタカ派色の強い内閣です。

これでは、国民の望む、平和で安心して暮らすことができる未来に展望が持てる政治など期待できませんね。

総選挙は27日投開票です。軍事最優先から、くらしと平和、希望の政治へ、自民党政治を大本から変える絶好のチャンスです。

心を込めて、力を尽くして、勝利のハトを飛ばしましょう。

E・I

2024年10月会員現勢・署名数 [9月30日現在]

① 会員現勢 375名 [前月比 - 1]

入会 1名 退会 2名

② 国賠署名

団体署名 5 [+2]

個人署名 50 [+20]